文化 地図から掘り起こす

地域資源

第2回

庄内交通湯野浜線とその周辺（鶴岡市）

東北公益文科大学准教授
松山　薫

東京都出身。お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。専門は人文地理学（近現代の歴史地理学）。主に軍用地や満州開拓に関わるテーマに取り組む。

鶴岡～湯野浜温泉を結んだ鉄道

鶴岡市の湯野浜温泉は、東北の歴史ある温泉地の中では珍しく海沿いにあり、東北三楽郷の一つと称され、湯治客を集めてきた。かつて、その湯野浜温泉と鶴岡駅の間を12.3kmで結ぶ鉄道路線があった。1929（昭和4）年に開設された庄内電気鉄道である（のちに庄内交通湯野浜線となる）。鉄道自体は1975（昭和50）年に廃線となったが、今も鉄道ファンには知られた存在で、休日になると熱心な廃線マニアが鉄路の痕跡を写真に収めているのを見かけることがある。

図1は1947（昭和22）年に発行された地形図であるが、鶴岡駅から西北西に伸びていく線路が確認できる。線路沿いに「庄内電気鉄道」の文字も見える。やがて旧大山町の市街地北部でほぼ90度に北に向きを変え、曹洞宗の古刹（こさつ）である善寶寺（ぜんぽうじ）の東を経て、庄内砂丘の南端に近いところを回り込んで湯野浜温泉に着く。現在では、鶴岡～善寶寺間の鉄路の痕跡はほとんどないが、善寶寺～湯野浜間は多くの遺構が残る。この区間の大部分は廃線跡の利活用例としては比較的よくみられるサイクリングロードとして整備されており、廃線後に発行された地形図でも、地図を見慣れた人なら一目で線路跡とわかるゆるやかなカーブを描いて砂丘を超えていく。

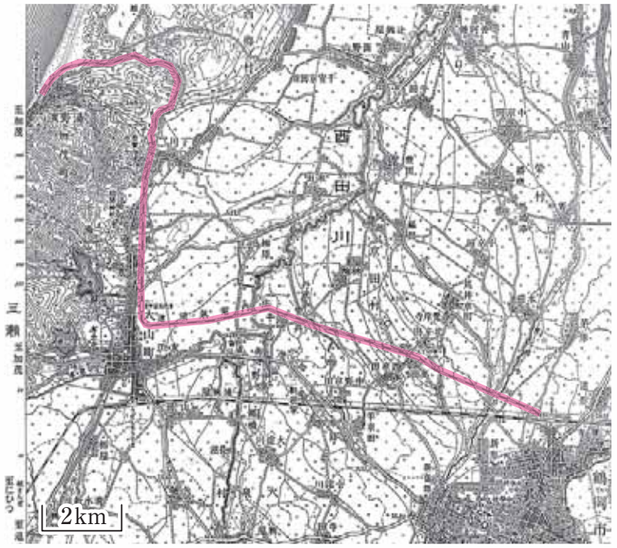

図1　5万分の1地形図「鶴岡」1934年修正測図　1947年発行（内務省地理調査所）
庄内電気鉄道（筆者補入）

参詣と温泉

このエリアには、湯野浜温泉のほかにも「集客力」の高い施設がある。前述の善寶寺である。水をつかさどる龍神を祀った善寶寺の信仰圏は広く、特に海事・漁業関係や治水関係からの信仰を集め、現在の同寺の龍王講の講員は北は北海道、日本海側は福井県、太平洋側は千葉県にまで及んでいるという。

当然、庄内電鉄開業と同時に善寶寺駅も設置された。その駅舎は、寺が龍神を祀っているだけに、竜宮城をイメージしたものともいわれる（図2）。ところで、寺社参詣の後に温泉で休息・遊興、というのは日本の旅行文化の原点ともいうべき王道ツアーである。この地でも、鉄道開通直後に庄内電鉄を利用し参詣と温泉遊覧を組み合わせた新潟方面からの団体旅行がさっそく企画されたという（山口壽・秋保良編集執筆『湯野浜の歴史』湯野浜地区住民会、1994年）。

図2　旧善寶寺駅駅舎（2005年、筆者撮影）

この旧善寶寺駅の駅舎は現在も残っており、車両も一両保存されていて、廃線巡りの人々にとってのハイライトとなっている。この旧駅舎はかつて「善寶寺鉄道記念館」として活用されていたが、老朽化を理由に閉館して久しいようで、私が庄内に来た時にはすでに閉まっていた。意匠的にも興趣をそそり、文化的な価値が高いと思われる、築90年になろうとするこの建物の今後について、現在の所有者である善寶寺に問い合わせたところ、修復・保存を予定しているとのことであった。建物の行く末を、脇を通るたびに案じていた身には、大きな安堵である。

「貝喰の池」に住むのは

善寶寺の駅舎から北西に1kmほど登っていくと、貝喰（かいばみ）の池（いけ）という砂丘によって谷が閉塞されてできた池が現れる。この池は、善寶寺に祀られている龍神が住む聖なる場所とされ、藤沢周平の小説『龍を見た男』にも登場する。1990（平成2）年には、週刊誌の報道によってこの池に住むコイが「人面魚」として有名になり、全国的な“人面動物ブーム”のきっかけとなったことは多くの方がご記憶だろう。当時は多い時で1日に1万人もの観光客が押し寄せ、人面魚グッズなどの土産物が飛ぶように売れたという。ブームが去った後も、その名残は周辺地域に刻まれていた（図3、図4）。

善寶寺にあったスキー場

さて、鉄道開業当時の沿線の「集客施設」は温泉と寺にとどまらなかった。庄内電気鉄道は、鉄道開通直後の1930（昭和5）年に「善寶寺スキー場」を開設した（図5の④）。私は、十数年前にたまたま山形県スキー連盟の編纂した『山形県スキー史』（1981年）を読んでその存在を知り、庄内電気鉄道を合併した庄内交通に問い合わせたのだが、当時のスキー場に関する資料の存在は確認できないとのことだった。戦前の新聞報道によると、スキーシーズンの鶴岡駅はスキーヤーでごった返し、庄内電鉄では車両を1両増結するなどして対応したという。庄内の学校のスキー教育の場として活用され、さらに県全体の学童スキー大会などの会場にもなった。戦時色が濃くなるといわゆる戦技スキーの修練の場ともなり1944年ごろまではさかんに使われていたようだが、戦後いつ、なぜ廃業したのかは定かではない。

ちなみにスキー場開設と同じ1930年には、地元有志により湯野浜温泉から少し南の加茂地区に「山形県水族館」（現在の加茂水族館）が開館している。沿線地域一帯で観光地化の機運が高まっていたことがうかがえる。

戦前の東急や阪急などの私鉄沿線の総合的な開発をも想起させる、地域の思いのこめられた庄内交通湯野浜線とその周辺の歴史について、調査し記録しておくべきことはまだ多く残されているように思う。

（東北公益文科大学准教授・松山　薫）

図3　湯野浜温泉中心部に10年ほど前まであった案内板の一部（2005年、筆者撮影）

図4　現存する人面魚グッズの看板（2019年、筆者撮影）

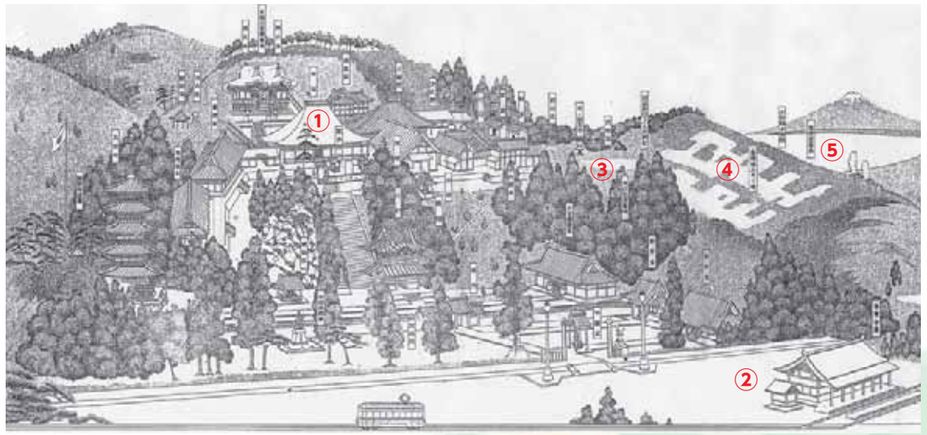

図5　［善寶寺］（1937）：『龍澤山善寶寺畧縁起　両大龍王尊御出現』折込図
①～⑤は筆者補入。①善寶寺本堂　②善寶寺駅駅舎　③貝喰の池　④善寶寺スキー場　⑤湯野浜温泉の湯けむり
（方位はデフォルメされている）